

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2025-004
2.研究課題名	類別詞言語における可算性について
3.研究期間	令和7年7月（倫理委員会承認後）～ 令和8年3月31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 英語では、可算名詞と不可算名詞が文法的に区別されている。可算名詞は冠詞の a、複数マーカーの s をつけることができ、また、数詞で直接に数えることができる。それに対し、不可算名詞は冠詞も複数マーカーもつけることができず、数詞で直接に数えることもできない。例えば、可算名詞の cup は a cup, cups, three cups のような表現になれるが、不可算名詞の water の場合、a water, waters, three waters は非文法的になる。このような可算名詞と不可算名詞の区別は根本的に物体（object）と物質（substance）の区別にある。物体はもともと個別性のある存在であり、一定の形を持つものであるのに対し、物質は個別性のない存在であり、形も「全体」という概念もないものである。英語のような可算名詞と不可算名詞を文法的に区別する言語の母語話者は物体と物質の存在論的区別を正確に理解できると考えられる。 一方、日本語や中国語などの類別詞（助数詞；numeral classifier）を持つ言語は一般的に可算名詞と不可算名詞を文法的に区別しない。しかし、類別詞言語の母語話者も物体と物質の存在論的区別を理解できているようである（Imai and Gentner, 1997; Imai and Mazuka, 2007）。1つの可能性としては、類別詞言語の母語話者は類別詞句レベルで可算名詞と不可算名詞を区別する（Cheng and Sybesma, 1998; Cheng and Sybesma, 1999）。この観点から見ると、類別詞は名詞が本来持つ個別的単位をそのまま示す可算類別詞（sortal classifiers, count classifiers）と名詞が本来持たない単位を新たに設定する不可算類別詞（mass classifiers, massifiers, mensural classifiers）に分けることができる。可算類別詞はもっぱら物体を数えるときに使われるのに対し、不可算類別詞は主に本来数えられない物質に数えられる単位を与える。したがって、類別詞言語の話者は類別詞レベルでの可算・不可算の文法的区別で名詞の存在論的区分をする可能性がある。それを検証するために、類別詞言語の話者が可算・不可算の区別を統語的に処理するのか、意味的に処理するのかを明らかにする必要がある。また、同じ類別詞を持つ言語であっても、可算性に対して同じ処理を行うかどうか不明である。 それらの問題を明らかにするために、事象関連電位（event-related potential, ERP）を計測することが1つの有力な手法である。本研究は、Kanero, Imai, Okada and Hoshino (2015)で行われた実験を踏まえ、日本語母語話者に日本語の類別詞・名詞の正しい組み合わせ（二台の電話）、物体・物質の存在論的境界を跨いだ誤った組み合わせ（二台の毛布）、物体・物質の存在論的境界を跨いでいない誤った組み合わせ（二台のチーズ）を読ませ、ERPを計測して比較する。それを通して、日本語母語話者の類別詞と可算・不可算の処理に関する知見を深める

	ことができると期待する。さらに、本研究の結果は今後行う予定の中国語母語話者対象の実験の比較対象となるため、個人の特性を統制する必要があり、知能検査(Wechsler's Adult Intelligence Scale: WAIS-IV)を行う。
	方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 重篤な疾患がなく日常生活に支障のない健常の右利きの東北大学に在籍する日本語母語話者 30 名を対象とする予定である。実験では、参加者に専用の帽子（キャップ）をかぶってもらい、その穴から電極を頭皮上に当てて参加者の脳波を測定する。脳波を測定している間に、参加者にコンピューターに順に提示される類別詞句（二台の）、名詞（毛布）を声を出さずに読んでもらい、最後に参加者が類別詞・名詞の組み合わせをしっかりと読んでいるかどうかを確認するために、この組み合わせが日本語として正しいかどうかを判断してもらい、ボタンを押してもらい。また、参加者の個人の特性を把握するために、別日に利き手テスト FLANDERS 日本語版（大久保他, 2014）と知能検査（Wechsler's Adult Intelligence Scale: WAIS-IV）を実施する。謝金は¥〇〇を支払う。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 東北大学大学院文学研究科言語学研究室（022-795-5983） 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」 倫理審査委員会事務局（022-795-6103）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）